

だんごむしファミリーの食事は如何にしてなされたか

だんごむし：(団子虫、英：wood louse, pl. wood lice) とは、ワラジムシ目（等脚目）の動物のうち、陸生で刺激を受けると丸くなる習性を持つものを指す。一般に「ダンゴムシ」と呼ばれるものはオカダンゴムシである。広意の土壤に生息して分解者の役割を担っており、土壌形成上一定の役割を果たしているものと考えられており、食性と生態から自然界の分解者という要素が強い¹⁾。

ただいま、しょくいき[㊟]では、いちごを育てています。そのいちごの名は「ジャンボ」です。「ジャンボ」なので大実になるはずでした。購入時の苗の札にも大実イチゴ苗と書いてあります（右図）。

昨年の植いき新聞の第12号にもあるように、今年もメンバーさんにいちごのおすそわけができるはずでした（ちなみに昨年は「宝交早生」だったと思います）。しかし…。今年の一ちごは…。だんごむしファミリーに大大人気です。そこで、だんごむしファミリーが如何にして食事を開催するようになったかをここで推測してみましょう。



植物いきいきサークル

第65号

発行者：犬丸

いつどこからやってきたのか。誰も知らない。それは土から生まれたのか、それとも空から飛んできたのか。はたまた宇宙からやってきたのか。

だんごむしファミリーは、ある日のこと、赤くみのりつつある実を見つけたのである。

「とうちゃん、ここにおいしいそうな実があるよ」

「どれどれ」

まず、お父さんだんごむしが、赤い実をすこしかじりました。

「うまー」

おなかがへったお母さんだんごむしが、

「お父さんだけ、ずるーい。わたしも…」

と言って、食べました。

「ぼくも」「わたしも」「どれどれ、わしも」「どれどれ、わたくしも」

ついにだんごむし息子や娘、だんごむしおじいちゃん、おばあちゃんも食べ始めました。

いちごはみるみる間に小さくなり、大実に育つ前に、すっかり小さくなりました。外観は丸くとも中身は空洞、赤くておいしいいちごの中身は、いつしかだんごむしファミリーの御馳走となりました。

それから、月日がたち、今では親戚一同も介して、だんごむしファミリーのいちごの大食事が開催されようとしています。いちごもランナー（匍匐茎）を出して、必死に大きく育とうとしています。だんごむしファミリーの食欲にはかなわないようです。

ただいま、しょくいき[㊟]では、だんごむしも育てています。

1) ダンゴムシ： <http://ja.wikipedia.org/wiki/ダンゴムシ>（閲覧 2015. 6. 4）